

中信地区公運協だより

編集発行
中信地区公民館
運営協議会
松本市島立1020
長野県松本合同庁舎内
中信教育事務所

あいさつ

中信地区公民館運営協議会会長 内山 修治
(麻績村公民館長)



今年度、四月より中信地区公民館運営協議会の会長を務めさせていただきます麻績村公民館、館長の内山修治と申します。初めての経験ですが、皆さまのご協力をいただき、務めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

三年にわたるコロナ禍においてあらゆる事業が縮小・中止を余儀なくされるなか、公民館事業も同様に、計画した行事を思うように実施することができませんでした。人が集まることが制限され、マスク着用が日常となった日々のなかで、人と人とのつながりの大切さを日々思い知らされたものです。公民館を管轄する市町村においては、以前から、社会状況の変化により、公民館を変わらざるに維持していくことが難しい状況が続いてきたことと思えます。

が、アフターコロナの今だからこそ、公民館は地域社会において大きな役割を持って存在しているといえます。

すなわち、公民館の役割とは、一、地域コミュニティの支援と

- 二、健康と福祉の促進
- 三、学びと教育の場の提供
- 四、文化交流と娯楽の場
- 五、ボランティア活動の推進
- 六、災害対応の準備など

つまり、今、公民館に求められていることは、災害に強く、福祉を支え、人々がつながりながら生きがいを持てる、持続可能な地域への構築ではないでしょうか。さらに、学校教育の分野では信州型コミュニティスクールを推進して、学校と地域を結び役割もまた、公民館には求められています。

これらの実践を目指し、地域の皆さんがより豊かな生活を送るための機会を提供できるように、全力を尽くしましょう。そして、共に成長し、共に学び合いたしましょう。よろしくお願いたします。

公民館と幸せ

中信地区公民館運営協議会 幹事長 渡部 宏太
(白馬村公民館 副館長)



昨年度に続き、中信地区公民館運営協議会幹事長を務めております、白馬村公民館の渡邊宏太と申します。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、コロナ禍前の日常を取り戻すべく、さまざまな行事が復活されるなかで、職員や役員の引き継ぎ等の課題も多く、皆さんも苦労されていることと思えます。さて、しあわせ信州創造プラ

公民館と私

松本市内田公民館 主事 小河原 萌



「どうして職員のいる公民館と誰もいない公民館があるのだろう？」散歩中にそんな疑問が湧いた矢先、公民館への異動が決まりました。異動前の中央図書館では、利用者者の「知りたい」「学びたい」を支援するのが自分の仕事だと

ン(長野県総合5か年計画)が見直され「ゆたかな社会」と「ウェルビーイング」がキーワードとなつていきます。人が幸せを感じる要素として、①健康、②人とのつながり、③地域や社会への貢献(誰かの役に立つ)、④学びと成長、⑤時間的・経済的な自由等が重要であるといわれています。言うまでもなく、これらの観点は公民館活動にも密接に関係しています。

考え、テーマ展示コーナーを設けたり、おすすめ本のPOPを作ったりという「知る」ことのきっかけづくりや、利用者個人が読みたい本や求める情報が載っている本を探したりという「学び」のお手伝いをしていました。コロナ禍で図書館を休館し、予約本のみを貸出した際に、本を求める方が多く、「このような状況だからこそ本が癒しです」と感謝を述べてくださった利用者の笑顔が印象に残っています。一方、同じ社会教育機関である公民館も、私が異動した時、

や自己有用感を抱き、無料もしくはは安価で楽しい時間や経験をえられる。それが実現できれば、住民だけでなく、公民館職員の幸せにもつながります。

白馬村では、コロナ禍を経て4年ぶりとなる村民運動会で、9年ぶりに分館対抗のリレー種目を復活させました。選手選考など役員の負担軽減を図ることも大切ですが、一見煩わしいそのひと手間にこそ意味があり、それが地域力の維持・向上や、個人の幸せにつながり得ると信じて、関係者で議論して結論を出しました。

集まらなくてもできることが増えたからこそ、「集まること」の素晴らしさを感じる機会にしたい。会場に集った住民の笑顔や声援に幸せを感じるひと時でした。

「集まりたい」「学びたい」という思いを持った皆さんのおかげで、自分は公民館主事の仕事をさせてもらっていると実感する日々です。図書館と比べ、明確な学習ニーズがわかりづらいですが、それをキャッチするのが自分の役割だと思っています。ちなみに、先の疑問は、新任公民館職員研修で解消されました。市設置の地区公民館と町会が設置・運営する町内公民館がある。

生涯学習最前線

～学習の風北から南から～



里山での公民館講座

塩尻市中央公民館 主事

安藤 寿秀

塩尻市中央公民館では、里山をフィールドとした講座を令和元年度より実施しています。きっかけは、社会教育の理念を起点として活動を開始した自然体験活動ボランティアグループ「熊野井塾」のメンバーとのつながりができたこと。熊野井塾のフィールドを借りていただきながら、一緒にさまざまな活動を行っています。

昨年度からは、3つの講座を主に行っています。夏の里山を楽しむ「夏のデイキャンプ」、秋の里山での「炭焼き体験会」、そして、里山で皆さんが自由に過ごす「里山で過ごそう」です。この3つの講座を行いながら、



子どもによるキャンプファイヤー点火！

自然に触れる機会の創出、子どもたちの地域での原体験となる思いづくり、そして、つながりづくりを主な目的として活動しています。今回は、この夏に実施した「夏の里山デイキャンプ」をご紹介します。

夏の里山デイキャンプは毎年人気で、今年も50名以上の申し込みがありました。ただ、里山の講座は天気は左右されるため、当日まで天気を心配しながら、準備を進めていきました。当日の朝は雨が降っていましたが、開始時刻になると雨も止み、たくさん参加者の皆さんとさまざまな活動を楽しむことができました。名札づくり、工作教室、レクリエーションゲーム、スイカ割り、カレー作り、キャンプファイヤー、花火など。盛りだくさんの内容でしたが、参加者は作成した名札をきっかけに自然と話をしたり、一緒に遊んだりしていました。また、異なる学年の子どもたちが自然と仲良くなる姿も見ることができました。職員が手を出しすぎず、参加者の皆さんにできるだけ行ってもらうことで、よりつながりづくりの場として有効だったと思います。

コロナの位置づけが変わってから初めての里山デイキャンプでしたが、子どもも大人も楽しそうな笑顔が見られたことが、私にとって一番の喜びでした。今後も里山・自然の良さを活用しながら、「わくわく」できる体験を企画していきたいと思

中房温泉自然観察会

安曇野市穂高公民館 館長

早川 正美

安曇野市内には国指定文化財が8件あります。その内訳は(特別)天然記念物としての動物が3件、重要文化財として建築物・彫刻・石造物が4件、そして唯一、区画として天然記念物の指定を受けているのが「中房温泉の膠状珪酸および珪華」です。その指定は昭和3(1928)年と、国指定文化財のなかでも群を抜いて古いものです。

しかし、残念なことに、中房温泉の敷地内に国指定天然記念物があることや、それが江戸時代から松本藩の貴重な財源となる「明礬(ミョウバン)」という鉱物をもたらしにくれたことは、市民にはまったく知られていません。ミョウバンは生糸の艶を出すことで、その価値を上げ、我が国の生糸産業に大きな恩恵をもたらしてきたもので、いわば、安曇野市が全国に誇るかけがえのない重要文化財なのです。

安曇野市は、平成30年に「第2次安曇野市文化振興計画」を策定し、かけがえのない自然環境の保全と継承を市民レベルで進める方針を示しました。これを受け、穂高公民館では文化課や環境課と連携し、中房温泉株式会社代表の百瀬孝仁さんの協力をいただいた、令和4年10月14日に「中房温泉自然観察会」を実施しました。講師は、百瀬さんのほか



90℃以上の熱湯が噴き出す湯元大弾正

に、百瀬さんと親交の深い文化課職員と、学生時代から中房温泉の膠状珪酸・珪華を研究している環境課職員の3名が務めました。募集定員は14名でしたが、実際には30名の応募があり、市民の関心の高さがうかがえました。中房温泉の敷地には宿泊者しか入れないこともあり、市民であっても初めて中房温泉に行く、という受講者が大半でした。天然記念物の見学だけでなく、地熱を利用した調理体験や温泉施設の利用、名物「地鶏カレー」の昼食を含めた内容で、半日ではありましたが、中房温泉の自然を満喫してもらうことができました。

受講者からは、「初めて知ることの多い講座であり、充実した1日を過ごせた」「国の天然記念物でありながら今まで知らないでいました」「想像していた以上に内容が濃くて勉強になりました」など、高評価の感想が多く寄せられました。安曇野市の施策とも合致しているので、今後も今回の反省を生かして継続実施していきたいと思っています。

各種報告

中信地区公運協のほか、各地域の公民館で行った活動や開催した研修会について報告します。

活動報告

学校・村民合同運動会開催

木曽郡王滝村公民館 主事 池本 誠

王滝村は、木曽郡のなかでも一番西側、御嶽山の麓に位置する小さな村です。人口は670人余りで、観光や林業などが主な産業となっています。ここ3年、コロナ禍で活動の幅が狭められてはいましたが、それでも、対策をしながら公民館事業や学校行事を行ってきました。そのなかで、学校と村民とが一緒



参加者全員で記念撮影！ 王滝ならではの一枚に

になって取り組んだ合同運動会についてご紹介いたします。もとより、王滝村では運動会を、午前中が学校、午後が村民といった形で同じ日に分けて開催していました。ところが、近年は児童数の減少により、学校運動会は、ほとんどの種目に全員が出場する状況であり、保護者や教員も含めた観客数も減っていました。村民運動会も同様の問題を抱えていたため、その解決策として発案されたのが「学校・村民合同運動会」でした。開催にあたっては、児童たちも実行委員会に出席するなど、企画の段階から参加。自分たちとお年寄りや大人と一緒に参加できる種目を考え、委員会で発表してもらった機会もつくることができました。また、当日は児童の種目と、大人の種目を交互

に行うことで、互いの競技を観戦するとともに、休む時間を確保することができました。そんな、皆で助け合いながらつくり上げた運動会には、昨年まで参加していなかった年代の方や企業の方も参加し、大いに盛り上がりました。合同で開催するには、連絡調整やスタッフの声掛け、周知に難しさはありますが、その分、村内が一体となった楽しい運動会となりました。今後も学校と村民の合同企画をさらに進めて行きたいと考えています。

活動概要



名称：王滝村学校・村民合同運動会
日程：令和5年5月20日(土)
時間：9時～11時30分
場所：王滝小学校 校庭
主催：学校・村民合同運動会実行委員会

活動報告

地域スポーツコミュニティの活性化を目指して

東筑摩郡麻績村公民館 主事 一之瀬 裕希

麻績村公民館では、毎年6月に「村民体育祭」を開催してい

ましたが、近年は各地の分館から「人集めが大変難しい」との声が多く聞かれていました。そこで、4月のスポーツ推進委員会において、各分館の人集めをなくして、公民館主体で自由参加型の代替体育イベントを行っていくこととなりました。その代替イベントとして計画したのが「ふれすぽ」です。「ふれすぽ」は、ふれあいスポーツの略で、スポーツ推進委員の皆さんの発案により、村民体育祭の代替イベントとしてだけではなく、継続的なスポーツ機会の提供を目的とした取り組みとして企画。スポーツ推進委員会の内容を固め、今年度は6月から11月まで毎月(計6回)計画されています。6月18日に行われた第1回目の「ふれすぽ」は、村総合体育館を会場として、保育園・小学校の園児・児童向けに「スポーツ鬼ごっこ」をメインとした内容で開催しました。体育館武道場には園児・児童向けのサーキットスペース、アリーナ半面にはバトミントン・バスケットボール・フットサルなどができるフリースペースを設けて自由に出入り可能とし、メインの「スポーツ鬼ごっこ」はアリーナのもう半面を使って実施しました。当日は約40名の皆さんが参加され、思い思いに汗を流していました。今後もメインスポーツを変更し、屋外でのスポーツも取り入れるなど、さまざまな体験ができるよう工夫していきます。村民体育祭以外にも、今年度、麻績村ではコロナ禍で活動停止

活動概要



名称：第1回ふれすぽ
日程：令和5年6月18日(日)
時間：9時～12時
場所：麻績村総合体育館
主催：麻績村公民館



「スポーツ鬼ごっこ」は頭も使います

していた地域スポーツコミュニティの活性化を目指す柱として、「競技スポーツの振興」「世代間交流」「地域スポーツ環境の充実」を掲げて活動を推進しています。特に「地域スポーツ環境の充実」については、今年度からホームタウン契約をした松本山雅などのプロスポーツ団体が実施する講師派遣の活用や、ニュースポーツ体験など、皆さんが主体的に参加できる環境を整え、地域スポーツコミュニティの活性化を目指していきます。

グループ紹介

「そば華会」と「そば打ち講座」

大町市平公民館 主事 須澤 俊太

大町市の平公民館には10近くのそば打ちサークルがあります。今回はそのなかで最も歴史のある「そば華会」というサークルをご紹介します。

この記事の執筆にあたって取材をさせていただいたところ、結成当初からの会員は誰もいなかったため正確な年数はわかりませんが、結成からは25年以上経過をしているようです。

現在の代表である小山守彦さんは、平公民館で毎年行っている「そば打ち講座」の講師もお願いしている先生です。この「そば打ち講座」は、例年、定員いっぱい申し込みがある人気の講座ですが、受講後も小山さんから学びたいという方が多く、そのまま「そば華会」に入会する方もいらつしやいます。実は小山さん自身も、以前に「そば華会」の代表が講師をしていた「そば打ち講座」を受講して、サークルに入会した一人なのです。現在は、その方から小山さんが「代表」と「講師」を引き継いでおり、まさに公民館の活動で学んだ成果を地域で生かすという、理想的な流れが生まれています。

ちなみに、私も小山さんが打ったそばを食べたことがあります。これまでは食べたことがありませんが、おいしいことを覚えておきます。そして、そんなそばを自分でも打ちたいと、小山さん

グループ概要



名称：そば華会
 場所：大町市平公民館
 人数：15名
 代表：小山守彦
 連絡：0261-22-0694
 (平公民館)

の「そば打ち講座」を受講させていただきましたが、先生のように上手に打つことが、まったくできませんでした。小山さんのそば打ち歴は30年近い(私の年齢と同じくらい!)。そうですが、あれほどおいしいそばを打つためには、そのくらいの年数が必要ということでしょうか。「そば打ち講座」を受講した後も、小山さんと一緒にそば打ちをして学びたいという方の気持ちがよくわかりました。平公民館にはこのような伝統のあるサークルがあります。これからも伝統のある「そば打ち講座」を行っていき、「そば華会」と平公民館を盛り上げていきたいと思えます。ところで、「そば打ち講座」で打つのは二八そばになります。もし気になる方がいらつしやいましたら、ご連絡いただければレシピ(打ち方)をお送りします。

令和5年度 中信地区公民館運営協議会 役員構成

郡市	所属	役職	名前	中信公運協			県公運協役員
				役員	評議員	事務局・参与	
松本市	入山辺	館長代表	小笠原 鉄夫	副会長	○		
松本市	神林	主事代表	丸山 貴大	監事(主事)	○	視察・研修係	
塩尻市	中央	館長代表	青柳 信雄		○		
塩尻市	中央	主事代表	安藤 寿秀		○		資料刊行委員会 委員
大北	大町市大町	館長代表	丸山 優一		○		
大北	白馬村	主事代表	渡邊 宏太	副会長	○	事務局長 (主事会幹事長)	理事 (主事会常任幹事) 資料刊行委員会 委員
安曇野市	三郷	館長代表	藤松 伸二郎		○		
安曇野市	中央	主事代表	黒岩 慶太		○	事務局員 (主事会副幹事長) 公運協だより編集委員	
東筑摩郡	麻績村	館長代表	内山 修治	会長	○		
東筑摩郡	朝日村	主事代表	山口 純平		○		県公運協だより 編集委員
木曾郡	木曾町三岳	館長代表	見波 けさ子	監事(館長)	○		
木曾郡	大桑村	主事代表	田口 美穂		○	視察・研修係	
松本市	今井		櫻井 貞文			参与	会長
松本市	島立		浅井 勇太			参与	理事 (主事会常任幹事) 資料刊行委員会 委員 資料刊行委員会 委員
松本市	本郷		分部 哲志				資料刊行委員会 委員
東筑摩郡	麻績村		一之瀬 祐希			会計	
中信教育事務所	生涯学習課		両澤 宏樹			参与	
中信教育事務所	生涯学習課		大工原 雅将			参与	

事務局だより

今年度、本紙「中信地区公運協だより」の編集委員を務めます安曇野市中央公民館の黒岩慶太と申します。実は、6年前に安曇野市役所に入職するまでは、10年ほど雑誌の編集をしており、今回、久しぶりに「編集の仕事」をさせていただきました。ところで、「編集の仕事」と聞いて、どんな仕事かイメージがつかまずでしようか? 「記事が書けるんでしょ!」「写真が上手なんだよね!」「おしゃれなレイアウトがつかれるんだって」など、これまでたびたび言われてきましたが、実はどれも「編集の仕事」ではないのです(実際に言われたときは、「あ、それなりには」と答えていました)。記事はライター、写真はカメラマン、レイアウトはデザイナーと、それぞれに専門職があり、どれも本質的には「編集の仕事」ではありません。では、どんな仕事なのか? たとえて言うならば、「料理人」でしょうか。農家が育てた野菜、漁師が釣った魚を使ってひとつの料理に仕上げ、陶芸家を作ったお皿に盛りつける。素材を最大限に引き出す料理もあれば(作家の文学作品)、料理人が完成形をイメージしながらさまざまな素材を集めて調理する場合もある(雑誌の特集)。本紙は、さしずめ、戦後から長年愛されてきた「町中華の日替わり定食」といったところでしょうか。少し、味付けと食器を変えてみました。何分、新人ですので、ご容赦ください。